企業名：　　CKD 株式会社

レポート名：　CKD レポート 2021

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

冒頭の会長・社長対談から、会社が今後特に重要視していこうとしているポイントが表れていた。中期目標や、改定された新しい長期目標「10 年 VISION」の基本方針を示し、持続可能性や人材育成を重視していく姿勢を見て取ることができた。

サステナビリティについては報告書の様々な箇所で触れられていた。マテリアリティの項目ではサステナビリティ委員会の抽出した問題が、SDGs との対応を示す形でマトリックスにより示されており分かりやすかった。産業機械のメーカーとして、環境に負荷をかけない製品の開発を重要な課題としているのは納得できた。それとともに実際の取り組み事例もあることでイメージもしやすくなっていた。世界的にも持続可能性については注目されていて、こうした機械メーカーの努力は SDGs の達成に直結するものであるのでぜひ最優先事項として推進してほしいと思う。

人材関連の内容にも見開き 1 ページ分を割いて説明がされていた。社員を「人材」ではなく「人財」と考え、会社自身の成長のためにその財産である人間のための施策が複数行われていることがうまくまとまっていたと思う。特に社員の身体的・精神的健康を重視していることが伝わる内容であった。

この他にも会社の目指す姿は「CKD の経営戦略」の章で財務や営業などの観点からそれぞれの目標などが掲げられていた。特に目に止まったのは、よりグローバルに事業を展開しようとしている内容であった。アジアだけでなく新たに北米にも工場を建て、ゆくゆくはヨーロッパへの進出も視野に入れているということであり、すでに目標へと動き出していることがわかった。トレーニー制度など人材育成でもグローバル化に進んでいることを読み取ることができた。

以上のように、世界の FA トータルサプライヤーを目指す CKD は「10 年 VISION」の 4 つの基本方針を中心に確実に動いていることが具体的な取り組みを挙げることでわかりやすくなっていて、目指す姿もイメージしやすかった。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

自動化や流体制御関連の機器を中心に、1 種類ではなく様々な機器を幅広く扱っている FA のトータルサプライヤーとして、顧客のニーズに対して様々な商品を組み合わせて提案できる点に優位性があるように読み取れた。これから目指していく世界に対しても顧客の声を聞きながら開発から生産、販売までを行えるのはこの会社の強みであると思う。他にもいくつかの製品では、業界の中で初めてのものやトップレベルのものも開発に成功してい

るということであった。

優位性というのはどちらかというと相対的な観点である。それはつまり他の企業との比較が欠かせないということである。その点この報告書は、同業他社や業界全体の情報が非常に少なかったように感じた。そのため、会社の強みや特徴はある程度理解できても、あまり機械製造の業界に詳しくない自分としては、会社が業界の中でどのような立ち位置にいて、同業他社とはどのように違うのかについては報告書を読んでもわからないままのことが多かった。業界全体の動きや業界内での強み、他企業にはない特徴が分かれば、より会社を深く理解し、正しく評価することができるようになると思う。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

38 ページの透明帯検査装置や 39 ページのクリーンな酸洗浄工程などの、業界初や業界トップレベルといった製品は、研究開発が進むことで更に良い製品が発明される可能性が高い。そして、こうしたよりよい製品を開発できるのが常に CKD であるとは限らない。より専門性の高い企業などがあればそちらのほうが、一つの製品に限れば開発力はあると考えられる。こうした企業と違い、CKD は複数の製品を製造している。先にも挙げた通り、この点が CKD の優位な点である。顧客の求めるものに対して様々な製品や製品の組み合わせを提案することができるのは、簡単に追い抜かれることのないポイントだと考えられる。

今後の海外展開で、更に多様化するニーズに対しても対応可能な開発を続けることで優位を保つことができると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

最初の項目でも述べた通り、人的資本についてはページを多く割いて説明し、会長・社長対談でも強調されていた。会社トップの方針として「人材重視の企業風土」の構築を重要視しているのは、社員としては嬉しいのではないだろうか。リーダー育成が目的の「梶本塾」の内容も気になるところである。他にはグローバル人材育成に力医を入れている点は良いと思った。自分は海外経験がほとんどないため、会社からこうした方向の教育を受けられるのは自分の価値向上に役立つだろうと感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

繰り返しになるが、業界全体のこれまでとこれからの動向については載せても良いのではないだろうか。加えて業界内での自社の立場を明らかにすることで他社との差別化を図ることができる。業界内での特徴は企業の価値そのものであり、統合報告書の目的の 1 つは財務情報だけでなく非財務情報についても開示をしてより正しく企業の価値を図ることにあるのだから、重要な情報になると考えられる。会社ごとに規模や扱う製品も微妙に変わってくるため、簡単に比較をすることはできず注意が必要だが、重要なポイントではあると思う。